

令和6年度 第2回小山市民フォーラム「こんなこともできた！小さな自慢交流会」意見(要約)

日時: 令和7年2月15日(土)14:00~16:30

会場: 小山市役所6階 大会議室

出席者: 参加者 13名

参加者(運営委員含む)の意見(要約)

A グループ:

(小山市の魅力・自慢)

- ・大きな災害や急にくる災害(津波・雪崩等)が少ない。
- ・市街地は、イオンやハーベストウォークなど商業施設が多く充実している。チェーン店も多いので、アニメなどのコラボイベントを行っているグッズが手に入りやすい。
- ・市の特産品が多く、食に不自由しない。
- ・学校では、「〇〇さんが作った野菜」というような生産者が分かる食材を給食に使っていて、子どもたちが生産者を身近に感じられるのが良い。
- ・美味しいラーメン店が多い。SNSで小山市を検索するとラーメンの話題が多い。
- ・須賀神社や高椅神社、結城紬など、歴史的な面白さがある。
- ・自然が豊かである。渡良瀬遊水地やコウノトリの飛来がある。東京に住む友達を渡良瀬遊水地へ連れてきたら、地平線が見えるというだけでも感動していた。
- ・学校体育館の冷房設備が整っている。避難所や選挙の投票所としても利用するので、学生以外の恩恵も大きい。
- ・花火大会やマルシェなどイベントが多い。
- ・コミュニティFM オーラジオがある。
- ・東京へのアクセスが良い。
- ・おーバスの料金が安い。おーバスが便利。
- ・思川温泉やいちごの里などの観光スポットがある。
- ・県内で人口が二番目に多い。

(魅力や自慢を広めるための方法)

- ・多世代に分かるような言葉・方法で情報発信を行う。高齢者は「マルシェ」という言葉が分かりづらかったりアプリの使用に慣れていなかったりするので、広報誌や回覧での周知が効果的と思われる。若者に対してはSNSによる発信を積極的に行う。
- ・学校に70周年記念誌や小山市のPR冊子を設置する。学生や保護者の目につきやすくなると思われる。
- ・教育機関と連携し、子どもを通じて大人(保護者)にも市のイベント等を周知し、観光地に来てもらったり市の歴史を知ってもらったりする。
- ・小山市全体でのイベント認知度を上げるために、自治会回覧や広報配布時に他の地域・自治会でのイベント情報も周知する。
- ・普段インターネットを使わない人でも情報を探しやすいように市のホームページを分かりやすくする。
- ・多世代だけでなく地域の特性に合わせた情報発信をする。
- ・ラーメン店のように市が直接関与しているわけでないが人気があるものも活用して「市の魅力」と

して打ち出せるようにする。

- ・転入者向けの地域差を生かした市内ガイドツアーやバスツアーを実施する。または「お酒好きな人向け」や「自然を感じたい人向け」というようなモデルコースを組んで紹介する。
- ・様々な地域のイベントや特産品などを掛け合わせた「こじつけ祭り」を開催する。
- ・各地域の様子やイベントを紹介するために、各公民館がブースを出す形で全ての公民館祭りを1つの場所で開催する。
- ・小山市全体で大きなお祭りを開催する。
- ・「焦点化」と「拡散」のメリハリをつける。データを分析する。限られた予算の中で、広く浅く発信するのか、いくつか絞った上で力を入れて発信するのかを決める。
- ・地元では当たり前のこと(渡良瀬遊水地がある・野菜や米が美味しい)だが、地元以外の人からすると貴重なものを生かしたプロモーションをする。生業を営む人と体験に来る人のギャップを埋める。
- ・おーラジを活用した市民参加型の番組を作る。市民に来てもらうのではなく、リポーターが各地域へ出張する。出張した際に、アプリでもおーラジが聴けることを伝えて使い方を教える。
- ・自虐しない。小山市の人は「地元の魅力がない」と言いがちだが、積極的に魅力発信をする。
- ・移住者は小山市の魅力を感じている人が多いと思うので、移住者に積極的に魅力を発信してもらう。
- ・地図アプリに小山市の観光地がロコミ(星)付きで表示されるようにする。
- ・LINEのオープンチャットを活用して、市の情報を周知する。
- ・「全国いじめ問題子供サミット」のような、子どもを対象とした市民フォーラムを開催する。
- ・ガソリンスタンドにある広告パネルに市政情報を流す。

(その他)

- ・地元愛や魅力発信の熱量は、その人の出身地によって差があるように感じる。小山市に住む人を出身地域(県)ごとに分けて小山市について語り合うイベントがあったら楽しそうである。
- ・おーバス内のディスプレイでは市政情報が流れているが、展開が早すぎて読むことができないので改善してほしい。

B グループ

(小山市の魅力・自慢)

- ・東西南北に走っているおーバスを利用して、いろいろな場所へ行き健康のために歩いている。
- ・小山市は企業のバランスが良い。
- ・いつも御殿広場でイベントが行われており、人口に対してのイベントの参加率が高い。
- ・村文化が残っている地域が多い。
- ・ロブレの映画のセレクトが良い。
- ・小山市歌「小山わがまち」を歌える市民が多い。
- ・ハーヴェストは学生の利用が多い。

(魅力や自慢を広めるための方法)

- ・アプリを使って小山市をPRする。
- ・ターゲット層に合わせた情報を発信する。
- ・インフルエンサーに小山市をPRしてもらう。

- ・メディアとタイアップして情報を発信し、聖地巡礼をできる場所を作る。
- ・小さな自慢が一つずつわかるようにピックアップして、行きたいと思ってもらえるような情報の伝え方をする。
- ・小山市に関する情報誌を東京や仙台などの人の多く集まる駅において、小山駅に降りてもらえるようにPRする。
- ・東京圏の人は、駅からの二次交通に困っているので、いちごの里や思川温泉などのチケットとおーバスの乗車券がセットになったものや、おーバスの一日乗車券などを売り出すのはどうか。
- ・わかりやすい場所にシェアサイクルやループを設置して、観光してもらう。
- ・新幹線を降りてすぐの場所に観光案内所を設置する。

(その他)

- ・城山公園は障がい者や高齢者には利用しづらいので、手すりがあればもっと利用しやすくなる。
- ・若者が集まるまちづくりをしたほうが良い。
- ・小山市は小さな自慢はあるが、これといったものがない。何かシンボルとなるものを作る必要がある。
- ・労働条件の良い雇用を増やしたり、教育に対する不安を減らしたりと、住みやすくなれば人が集まるので、暮らしやすい環境を整える。
- ・市役所まで行かないと情報が得られないので、駅で情報を取得できる場所があるとよい。
- ・せっかく新幹線が停まるのに、小山駅の2階が何もなく、有効に活用されていない。
- ・場外馬券場ができるという噂があったがなくなった。小山につくればチャンスになる。
- ・よく改札の中でイベントが行われており、人も多く来るので、その人達を駅の外に出てもらえるような取り組みを考えるべき。
- ・仙台は近県から人が集まり、若者も多いので、仙台を見習った街づくりをするべきである。
- ・都内から子供の遊び場を求めて小山に来る人もいる。
- ・小山市は魅力があり、ポテンシャルが高いのにプロモーションが上手くできていない。
- ・子どもたちが将来小山市に魅力を感じて戻ってきてくれるまちづくりをする。
- ・一過性で人を呼び込むだけでなく、継続して人を呼び込める取り組みをする。

C グループ

(小山市の魅力・自慢)

- ・思川がある。
- ・電車やバスなどの交通の便が良い要衝である。東京まで電車を使って1時間 20分くらいで行くことができる。
- ・車を所有していなくてもバスやタクシー、カーシェアを使うことで生活ができる。4人家族でも車を所有せずに3年間住むことができた。
- ・バス(特にハーヴェストウォーク線)が充実している。
- ・適度に田舎である。
- ・遠くへ行かなくても、猛禽類(トンビ・チュウヒなど)を見ることができ、シギが毎年小山に来る。自然が近くて、見るものがたくさんある面白いまちである。
- ・日光連山、筑波山が見えて見晴らしが良い。

- ・子育てをしている方や、引きこもりがちな方を対象としたものなどのたくさん集まりがある。
- ・若い人が集まり、情報交換をする場が増えている。
- ・イベントに市職員が多く参加し、市民の話を聞く姿勢がみられる。
- ・駅直結のロブレに未来塾(学生が勉強できるスペース)や子どもが遊べる場所がある。
- ・地盤がしっかりしていて、災害が少ない。
- ・公園などの身近な遊び場がたくさんある。

(魅力や自慢を広めるための方法)

- ・有名な市町村の広報等を勉強して、売り出し文句、特徴のある市の取り組み、市長について、市民活動などをデジタルの波に乗せて広める。
- ・全世代を対象とするためには、デジタルだけでなく、口コミなどのアナログも必要。
- ・交通の便が良いところは小山の自慢すべきところなので、「小山は車がないと生活できない」と吹聴せず、車を所有しない生活を選択肢の一つとして発信する。
- ・小山市の魅力に都会の魅力を混ぜる。若者の都会への心理的距離がなくなり、若者の流出を減らせるのではないかな。
- ・「交通の要衝」という魅力に基づき、駅を中心にまちづくりをする。
- ・他県でも知名度のある「小山ゆうえんち」のCMを使用して、SNSで発信する。または、「小山ゆうえんち」のCM曲を小山駅の発着ベルに採用する。
- ・宇都宮餃子や佐野ラーメンに匹敵するような小山市のご当地メニューを作る。
- ・小山市はもっと発展しても良いので、市職員と市民が一緒になって企画、相談できると良い。

(その他)

- ・視点を変え、いろいろな意見を聞くことや、言うことは大切。
- ・小規模な公園はたくさんあるが、使い勝手が良くない。
- ・昔の決まりをすべてダメにするのではなく、現代に当てはまるように代替りの対策を考える必要がある。
- ・ロブレの再開発は、市民の税金を使用しているので、いろいろな人の話を聞いたほうが良い。
- ・一人の力ではなく、みんなの力で何かできないかを考える。
- ・アナログ時代の人が作ってきたものを、デジタル時代の人に正しく伝える必要がある。

感想等(一部抜粋)

- ・少人数でしたが、意見交換ができて勉強になりました。「都会」と「田舎」の考え方のギャップも知ることができたので、どのようにしたら伝わるか、これから考えてみるきっかけができました。
- ・小山市民は無関心に見えて思った以上に自分たちの暮らす小山のことを真剣に考えているのだなということを知ることができました。
- ・初めて参加させていただきました。どんな事を言えば良いかわからず緊張していましたが、皆さんの小山を思う気持ちの熱さとこれからの小山を考える真摯な姿勢に私自身も楽しみながらお話しすることができました。自分たちの住んでいる街について、しっかり考え互いに意見を言い合う場があることは大切だと思います。